


ア	ー	ト	ワ	ー	ク
ア	イ	デ	ア	集	の



アートサポーター養成講座
～アートワークショップの体験市2015より～



目次

目次	1
ご挨拶	2
0.共通 「オトアソビ」楽器でおしゃべり	3
1.in東御市	
平成27年7月4日(土) 10:00～16:00 参加人数:30人 東御市中央公民館3F講堂(長野県東御市県288-4)	
1-1 「ウツス×カザル1」アール・ブリュットを飾ってみよう!	4
1-2 「ガラクタペインティング」描いて、作って、使って、捨てる	5
1-3 「シタジザイ」素材研究 What's "Shi-Ta-ji-Zai"???	6
1-4 「ケズル」スクラッチー削る??	7
2.in茅野市	
平成27年8月1日(土) 10:00～16:00 参加人数:35人 茅野市民館(長野県茅野市塚原1-1-1)	
2-1 「カザル2」作品をカッコよく飾る～100均の額をドレスアップ	8
2-2 「カンジル1」感じたことを絵にしてみよう(臨床美術の手法から)	9
2-3 「ハル」ペタペタ貼る 貼る	10
2-4 「キョウドウ1」協働作品を作ろう～夢の水族館	11
3.in駒ヶ根市	
平成27年9月12日(土) 10:00～16:30 参加人数:21人 駒ヶ根総合文化センター小ホール(長野県駒ヶ根市上穂栄町23-1) 駒ヶ根高原美術館(長野県駒ヶ根市赤穂88)	
3-1 「カザル3」カンタンにできる絵の展示	12
3-2 「コラージュ」アイドルを探せ～集团的個人画	13
3-3 「カンジル2」感じたことを絵にしよう(臨床美術の手法から)	14
3-4 「テンジ」「廃材アート×アール・ブリュット展」鑑賞会	15
4.in安曇野市	
平成27年11月14日(土) 10:00～16:00 参加人数:36人 サントピア豊科2F大ホール(長野県安曇野市豊科4156-1)	
4-1 「ハガス」パックをはがして美肌になろう!みたいな?	16
4-2 「キョウドウ2」色あそび	17
4-3 「ドローイング」線はのびるよ どこまでも	18
4-4 「スミアソビ」書道ではありません 墨あそびです	19
おわりに	20



ご挨拶

私たちNPO法人ながのアートミーティングは、障がいのある人の表現活動の場がより豊かに、楽しく、活発に提供されることを願って、主に長野県内の支援現場（福祉事業所、病院、学校等）で『出前アートワークショップ』を提供しています。

その活動を通して、普段日常的に障がいのある人を支援する人も表現活動により関心を深め、より多くの場で提供されることを願い、平成27年度に日本財団の助成を受け、『アートサポーター養成講座～アートワークショップの体験市』を県内4カ所で開催しました。

表現活動には様々な形があり、また障がいのある人それぞれにとっても個別的に、その人にあった表現方法があるかと思います。方法は無限にあります。たとえば『絵を描く』という表現活動を考えても、画材は様々にあり、その表現方法は様々です。そのうえ障がいのある人一人ひとりに適した方法も様々です。

私たちは普段日常的に障がいのある人を支援する、「かかわる人」たちが、まずは表現するって、絵を描くって、色を塗るって、線を引くって、なんと気持ちの良いこと、楽しいことかを感じていただくことが大事で、その「カンジ」を障がいのある人とともに楽しむことから、表現活動が始まると考えました。さらに表現方法は無限にあり、そのきっかけとなる表現方法の引き出しを一つでも多く持っていただくことを願って、体験市を企画しました。

今後、福祉現場などでぜひ役立てていただけるよう、4回の体験市を振り返ってアートワークのアイデア集としてまとめてみました。活用していただければ幸いです。

平成28年5月
NPO法人ながのアートミーティング
代表 関 孝之



共通

「オトアソビ」 楽器でおしゃべり

講師：塩津知広 ながのドラムサークル／代表

準備するもの

色々な楽器（音が鳴れば何でもOK）

今回の体験市では、すべて最初に「頭と体をほぐす音あそび」を行いました。まるで楽器でおしゃべりするように、時には一人で、時には全員で、それぞれの選んだ楽器の音を鳴らします。

最後は会場内に一体感が生まれ、アートワークに向けて気持ちも高まります。



メッセージ

アートワークを、より楽しんで、より吸収して、より自分のものにしていただくために、まずは『音あそび』でココロとカラダをほぐしましょう。

あなたをガチガチに固めているワクを取り払って、自由だった子供のころを思い出しましょう。ながのドラムサークルがお手伝いをいたします。ピュアな気持ちで飛び込んでください！（塩津）

1-1

「ウツス×カザル」 アール・ブリュットを飾ってみよう！

講師：大谷典子 元麻布ギャラリー佐久平／ギャラリスト



準備するもの

アクリル板（透明な下敷きなど）／油性ペン／段ボール／カッター／ものさし／カラーテープ／絵の具／両面テープ／色紙

①アクリル板を使って似顔絵を書く

- 2人一組になってアクリル板を相手の顔に近づけ、油性ペンで似顔絵を描く。（カンタンに似顔絵が描ける）
- 似顔絵を加工してドレスアップする。



②ダンボールをカットして額を作り、①の似顔絵を入れる

- 段ボールは作品よりも大きなサイズを3枚用意し、額、マット、背面として使用する。
- 額の縁にも色を入れたり、カラフルなカラーテープを貼るなどしてドレスアップする。
- アクリル板の裏に入れる色紙で作品の雰囲気も変わります。



メッセージ

表現活動は制作することで得られる楽しさが一番の目的ではありますが、できあがった作品によって褒められたり、認められたりすることで自信を持っていただくことも大切な要素のひとつだと思います。そこで、表現活動によってできあがった作品は、どんな場所でもいいので飾っていただくようお願いしています。ただそのまま壁に飾るだけでもいいのですが、少しの工夫で作品は見違えるようになります。その方法のひとつとして、ダンボールを材料に手作りの額装を体験していただきました。

また、今回額装する作品として、参加者のみなさんが体験市で出会った方の肖像画を描いていただきました。人物を描くのは苦手な方も多いと思いますが、アクリル板を使うことで誰でも楽しく描くことができると思います。（大谷）

1-2

「ガラクタペインティング」 描いて、作って、使って、捨てる

講師：坂田恵理子 ながのアートミーティング／アートサポーター



準備するもの

大きめの紙／牛乳パックを切ったカード／トイレットペーパーの芯／ストロー／筆／絵の具

①紙に色を塗る

- 廃棄される紙でも、筆だけでなくトイレットペーパーの芯、スポンジなど身近なモノを使って色を付けて色を塗る、色を流す。(形ある具象を描こうとせず、思い思いに色を塗ることを楽しむ)



②(紙が乾いたら) 紙袋に仕上げる

- 袋に組み立て、取っ手をつけてオリジナルの紙袋にする。
※もちろん紙をそのまま飾っても良いですが、工夫して使えるものにしてみましょう



メッセージ

絵の具はどうしても汚れます。なるべくなら、お片付けは簡単に、そう考えて使い捨ての道具をそろえてみると…可燃物、資源ごみ、プラスチック、ペットボトル…今や3Rは当たり前。ということで、制作の方法を環境に配慮した形にしてみました。

アート活動を楽しんだら、作品を飾って、使って役立てて、最後はリユース・リサイクル。素材、手段、アイデアは、身近にたくさんかくれている。

それらを見つけるアートの眼を、楽しく鍛えていくことで、日々の暮らしに少しでもワクワク感が加わったらいいなあと、思っています。(坂田)

1-3

「シタジザイ」

素材研究 What's "Shi-Ta-ji-Zai" ???

講師：武捨和貴 リベルテ／理事長

準備するもの

下地剤／紙／絵の具／筆／刷毛

①【講義】下地剤の説明

「下地剤」を知っていますか？

聞き慣れない素材かもしれませんが。

絵画にかぎらず、下地剤を事前に塗り、処理後に絵の具などで色彩などをつける場合の補助剤です。

②【実践】下地剤を使った作品とそうでない作品を比べる

素材に応じて下地剤を選んで塗ることで、生まれてくる作品も変化します。

素材研究として、下地剤を使った作品とそうでない作品を比べます。

- 下地を塗ることで、その上に描いた絵は深みを増す。
- 絵を描くことの苦手な人は白の画用紙にまず輪郭線を書き、背景や隙間を埋めていくことが苦手。先に下地として色で塗りつぶした紙に絵を描くと、ずいぶん絵の質が上がる。



メッセージ

What's "Shi-Ta-ji-Zai"???

味噌汁で言うところのだし汁。

洋風煮物で言うブイヨンのような。

作品を描く前の下地についてのワークショップです。

地味な部分ですが、楽しんで「素材研究」をしてもらえたらと思います。(武捨)

1-4

「ケズル」 スクラッチー削る??

講師：佐藤聡史／大塚裕子 東御市教育委員会／学芸員



準備するもの

クレヨン／お菓子等のパッケージ(はがきサイズ位にカット)
／竹串・割り箸・つまようじ等

①紙にクレヨンを重ね塗りする

- お菓子、ビール、カタログ誌の中のカラー写真等厚手の紙をはがきサイズくらいにカットする。
- その上にクレヨンを一面に塗り重ねる。(一番上は黒、深緑、紺など濃い色を塗る)



②竹串や割り箸で絵を描く

- 竹串、割り箸やつまようじ等で絵を描く。
(「スクラッチ」という手法)
- ※印刷された模様が下地として現れ、思わぬ作品となる。



メッセージ

クレヨンを何色か重ね塗りしたものに、竹串や割り箸で絵を描く「ひっかき絵」。
今回は、印刷された商品パッケージなどをつかったひっかき絵をやってみました。何色も塗る手間がなく、想像以上におもしろい風合いがでます。
白い画用紙、色画用紙なども活用しましょう。
「ひっかき絵」というと子ども向きの手法と思いがちですが、ひっかき(描線)アーティストもいるんですよ。(佐藤)

2-1

「カザル2」

作品をカッコよく飾る～100均の額をドレスアップ

講師：鈴木真知子 アートミーティングすわ／代表



準備するもの

絵／100円ショップの額／絵の具／筆／色画用紙／
カッター／ものさし

①100円ショップの額を分解し、色を塗る



②色画用紙をカットして「マット」を作り、絵を飾る

[マットの役割]

- 絵と額のバランス（余白）を整える。
- 絵と額のカラーコーディネートをする。
- 作品を保護する。

※100円ショップで購入した額でも、縁に色を塗ったり、また中に入れるマットによって、作品がさらに生きてくる。



メッセージ

カッコよく飾るために一番必要なのは、お金や道具ではありません。その作品を「いいね！」と思う気持ちと、手元にある限られた素材を利用して、いかにカッコよく見せようかを考えることです。

ピンとひらめいて素敵な展示ができた時。その時こそ、メンバーさんの作ったものが《アート作品》として生まれ変わる瞬間なのかもしれません。ぜひその醍醐味を味わっていただきたいなと思います。（鈴木）

「カンジル1」 感じたことを絵にしてみよう (臨床美術の手法から)

講師：篠原佳代・藤森るり アートミーティングすわ／メンバー



準備するもの

オイルパステル／紙／割り箸／ベビーパウダー

「感じたことを描く」

①自分のこぶし (固い・やわらかい)

- 利き腕でないほうの手の平を強く握りしめ、その『ギュー!』とした感じを紙の左半分に、10秒で描く。(時間を10秒と区切るところがミソ)
- 次にその手のひらをそっと開き、掌に生まれたてのヒヨコを載せているつもりで、その『ふわーっ!』とした感じをやはり10秒間で紙の右半分に描く。



②イメージしたものを描く

- 柔らかい毛糸の塊、固い木の立体をそれぞれじっくりと触れ、そこからイメージされたものを描く。オイルパステルを使用する。具象でもいい、ただパステルを塗り重ねるでもいい。感じたままに、手の動くままに。指先でパステルをこすってぼかすことも。塗り重ねられたら、割り箸の先などで削ってもいい。
- 仕上がった絵に、ベビーパウダー (魔法の粉) を振りかけて擦り込むと、いい香りとともに、オイルパステルのべたべたが取れてすべすべになり、仕上がりが良くなる。
- 音楽を聴きながら、イメージすることも面白い。

メッセージ

「感じ方」には人それぞれあるように、それぞれに感じて描いた絵には、「うまい・下手」はありません。好きなものは好きに。嫌いなものは嫌いに描いてみましょう。「自由に描く」ってこういうことなんだ!をぜひとも体験してください。そして絵の感想を自由に発表しましょう。ヒトそれぞれ。正解・不正解はないのですから。(篠原)

2-3

「ハル」
パタパタ貼る 貼る

講師：佐々木良太 ながのアートミーティング／副代表・アートサポーター

準備するもの

カッティングシート／はさみ／クリアファイル



カッティングシートを、思い思いの形に切って、クリアファイルに貼る。

- カッティングシートは高価なものなので、看板屋さんなどで端切れをもらって使用する。
- クリアファイルに貼り付ければ、素敵なオリジナルファイルとして使用できる。
- 絵の具やクレヨンなどと違い、『切って、貼る』という単純な行為が、障がいのある人の表現活動に新たな世界を提案できる。障がいのある人の中には、カッティングシートという素材は相性がいい場合が多い。貼る→単純である。



メッセージ

僕は昔「雷バック」というものを施設で利用者の方と作っていました。そこで感じたことは、シールと障がいのある方との相性の良さです。パチンと音を立ててハマったような気がしました。絵を描かないけれど、シールは好きという人がたくさんいました。そして出来上がった作品はどれも見事に個性は反映されていました。間口が広く、表現しやすく、しかも材料は（看板屋さんの廃材であるため）タダ。やらない理由がありません。

今日から／まずあなたから／始めましょう。（佐々木）

2-4

「キョウドウ」
協働作品を作ろう～夢の水族館

講師：橋本禪 ながのアートミーティング／アートサポーター

準備するもの

大きな紙（模造紙など）／絵の具／筆／刷毛／ローラーなど／はさみ

2つのグループに分かれる。

- グループAは大きな画用紙に、ローラーや発泡スチロールの端切れなどで、海の中をイメージして色付けする。
- グループBは画用紙に様々な色を塗り、図鑑や雑誌を見ながら、いろんな生き物を切り抜く。想像上の生き物でも何でもいい。
- グループAで出来た海の中の絵の中に、グループBで作られた生き物を貼り付けながら、海の中の風景を協働で作り上げていく。

※協働で作品を制作していく過程では、仲間同士でいろんな会話が生まれ、楽しい場が生まれる。参加者の制作への意欲が増幅される。



メッセージ

受け身ではなく率先して作品づくりに参加してね。（橋本）

3-1

「カザル3」 カンタンにできる絵の展示

講師：轟珠江 ながのアートミーティング／アートサポーター

準備するもの

絵／カッター／ものさし／スチロール版／水貼りテープ／水／刷毛

- ① 絵の中には必ず見せ場を探し、「ここだ!」という所が引き立つようにトリミングする。(のりしろを考えて少し大きめに四角くカットする)
- ② 絵の大きさが決まったらスチロール版をその絵に合わせてカットする。



- ③ スチロール版に絵を置き、縁を折り曲げて水貼りテープ（濡らすと粘着する）で固定する。

※全面に粘着材がついたノリパネ、貼るパネは一度接着させると、作品はがして、もとに戻すことができないので要注意



メッセージ

「利用者さんが描いた絵を飾りたいけど、額に入れるにはお金がかかるし…」ということはありませんか。そんな悩みを持つ施設の職員さんに向け、画用紙に描いた絵を簡単に見栄えよく展示する方法を紹介します。

額よりも軽いのでどんな壁面にも簡単に飾ることができます。(轟)

3-2

「コラージュ」 アイドルを探せ～集団的個人画

講師：橋本禪・木下千代美 ながのアートミーティング／アートサポーター

準備するもの

画用紙／マジック／絵の具／筆／刷毛／ローラーなど／はさみ／のり



① 8人くらいのグループで、順番にモデルになってもらいポーズをとってもらおう。それを他のメンバーは3分間でデッサンする。(時間を限定することがミソ)

② 他人が描いてくれたデッサンから気に入った一枚を選ぶ。



③ デッサンされた絵に色を塗ったり、雑誌や、カタログなどの中から、きれいと思う部分を切り抜いて、コラージュをし、さらにドレスアップをする。

④ 100円ショップで購入した額に入れて完成。



メッセージ

なりきって楽しみましょう。ナリキリが大事です。(橋本)

3-3

「カンジル2」 感じたことを絵にしよう (臨床美術の手法から)

講師：藤森るり・浅井孝恵 アートミーティングすわ／メンバー

準備するもの

オイルパステル／紙／割り箸／ベビーパウダー

「感じたことを描く」

①自分のこぶし (固い・やわらかい)

- 利き腕でないほうの手の平を強く握りしめ、その『ギュー!』とした感じを紙の左半分に、10秒で描く。(時間を10秒と区切るところがミソ)
- 次にその手のひらをそっと開き、掌に生まれただてのヒヨコを載せているつもりで、その『ふわっ!』とした感じをやはり10秒間で紙の右半分に描く。



②イメージしたものを描く

- 朝or昼に食べたものや音楽からイメージされたものを描く。オイルパステルを使用する。具象でもいい、ただパステルを塗り重ねるでもいい。感じたままに、手の動くままに。指先でパステルをこすってぼかすことも。塗り重ねられたら、割り箸の先などで削ってもいい。
- 仕上がった絵に、ベビーパウダー (魔法の粉) を振りかけて擦り込むと、いい香りとともに、オイルパステルのべたべたが取れてすべすべになり、仕上がりが良くなる。
- 音楽を聴きながら、イメージすることも面白い。

※このアートワークは8/1に茅野市で開催した内容とほぼ重複しますが、駒ヶ根市では音楽演奏 (インディアンフルート) を聴きながら色を塗りました。

メッセージ

「感じ方」には人それぞれあるように、それぞれに感じて描いた絵には、「うまい・下手」はありません。好きなものは好きに。嫌いなものは嫌いに描いてみましょう。「自由に描く」ってこういうことなんだ! をぜひとも体験してください。そして絵の感想を自由に発表しましょう。ヒトそれぞれ。正解・不正解はないのですから。(藤森)

3-4

「テンジ」 「廃材アート×アール・ブリュット展」鑑賞会

講師：中村勘二 ながのアートミーティング／事務局長



【作品展を開催しよう ～作品展開催のノウハウ～】

項目	概要
1. 作品を展示する意味	ネットワーク構築、自己肯定感の醸成
2. コンセプト	明確なコンセプトを持つ
3. 作品借用	コンセプトに沿って、合意形成のもとに
4. 会場選定	会場のメリット・デメリットを考える
5. チラシ	欲張らない（情報を詰めすぎない）
6. 展示方法	複数人で展示する
7. キャプション	タイトル、説明で作品が光る
8. 課題（資金調達…など）	ながのアートミーティングに相談を…



メッセージ

今回の作品展は「県内の福祉施設等で障がいのある方が制作した作品」と「地元駒ヶ根東中学校の生徒が制作した作品（廃材アート）」を一緒に展示させていただきました。

作品展の開催に「正解」はありませんが「定石」はある（と思います）。

作品展は支援者の腕の見せ所。作品展の開催を通じて長野県の文化・芸術の底上げを…！（中村）

4-1

「ハガス」 パックをはがして美肌になろう！みたいなの？

講師：坂田恵理子 ながのアートミーティング／アートサポーター

準備するもの

牛乳やジュース、酒類の紙パック／カッター／はさみ
／筆／絵の具／ひもなど（飾る場合）

- 1 牛乳やジュース、酒類の紙パックは色とりどり。紙パックを開いてコーティングをはがす。（きれいにはがす必要はない）
- 2 はがした所（白）と、残った形を見比べながら、描いたり塗ったり、またはがしたり。（30分でメイク完了）
※はがれなかった印刷された部分などと相まって思わぬ絵になる。
- 3 残りの10分で、でき上がった作品を装よそおいます。飾れるように、使えるように、誰かにあげたいくなるように。
※再び箱に組み立てるときれいな小物入れにもなる。



メッセージ

今回は、気軽に使えるペンや色鉛筆の発色を生かした制作を考えてみました。材料は、身近にころがあるもので。

→パックのコーティングをはがしていくと、○○○のところがるで○○○のように見えてくる？

そんな途中経過も楽しんでみてください。

→作品を初めて見せた人に、「え？これ紙パックで作ったの？」そういわれたら大成功！

→カッターを使うので、ケガをなさいませんように。（坂田）

4-2

「キョウドウ2」
色あそび

講師：轟珠江 ながのアートミーティング／アートサポーター



準備するもの

大きめの紙（模造紙など）／画用紙や半紙／絵の具／筆／刷毛／ローラー／はさみ／のり

【個人ワーク】

画用紙や半紙に思い思いに色を塗る。（形を描くのではなく、自分の色の世界を塗るという感じで）それを様々なカタチに切り抜く。（具象的でも抽象的でもいい）

【グループワーク】

大きめの紙（模造紙など）に切り抜いた形を貼り付けていく。何かしらの秩序を持たせるか、思うままに自由に貼り付けるか、グループで話し合いながら、独創的な世界を創りだす。

※形から絵を描くのではなく、色の世界からイメージを膨らませてカタチを生みだす。



メッセージ

これはこの色、あれはこの色……存在するあるモノのかたちから色を連想することはあっても、色からイメージのかたちを生み出すことってあまりないのではないのでしょうか。

ワークショップでは、無限に広がる色の世界を体感して、色から様々なイメージの世界をふくらませてもらえたらと思います。カタチのない色の世界を楽しんでもらえたらうれしいです。（轟）

4-3

「ドローイング」

線はのびるよ どこまでも

講師：佐々木良太 ながのアートミーティング／副代表・アートサポーター

準備するもの

大きな画用紙／油性ペン／鉛筆／ボールペン／セロテープ（画用紙を固定するため）

- 大きな画用紙に、グループメンバーそれぞれが油性ペン、鉛筆、ボールペンなどをもち、ひたすら線を引いていく。ルールとして紙からペンを離さずひたすら線を引く。メンバーそれぞれが勝手に動き回るので、それぞれが工夫して紙から線を離さず引いていく。
- さらにルール変更。2人一組になって1本のペンを持ち二人で、協働で線を引いていく。思わぬ線が描けていく。
※協働作業の楽しさを味わう。



メッセージ

他の人の書いた線に色に、反応し合って描きましょう。
音を楽しみましょう。体を使いましょう。
到達点を決めずに、さまよう事をたのしんでみましょう。
息をするように、歩くように、生活するように、描き進めてみましょう。
完成度の高い作品を作る事だけが（絵をかく）事では無いはずです。じゃー、いったい何があるのか？
絵をかくことをサポートする私たちにとって、新しい発見がたくさんあればと思っています。（佐々木）

4-4

「スミアソビ」 書道ではありません 墨あそびです

講師：関孝之 ながのアートミーティング／代表



準備するもの

大きな書道用紙／筆（身近にある「筆のようなもの」もOK）／墨汁／水／書道用下敷き／ブルーシートなど

- 使用する紙は、できるだけ大きいものにする。
- 筆は普通の書道用の筆だけでなく、身近にあるものを使う。（刷毛、モップ、箒、竹の皮、新聞紙を丸めたもの、稲や草の穂先など）それぞれに表現される線が違う。
- 墨は基本的に墨汁を使うが、水で薄めたりすれば、ぼかしやにじみが現れる。
- どんな言葉を表現するかは、障がいのある人それぞれに違うが、何よりおしゃべりを楽しみ、そこからその人らしい言葉を見つけ出す。
- 障がいのある人のなかには、普段文字が書けない方もいるが、例えばボードに文字を書いて見せると、それを見ながら写し取ることができる人もいる。（カタチとして捉える）
- 書順などには頓着しない。
- ご本人が『書けたぞ！』と達成感を味わうことが大事なので、『違う。』と修正させたり、型を押し付けることはしない。紙いっぱい気持ちよく線が引けることを尊重する。
※墨の黒と、紙の白のコントラストがはっきりしていることが、障がいのある人にはわかりやすくいいのかもしれない。



メッセージ

なぜ、あえて書道とは言わず、墨遊びとしたのか。普段書道になじみのない私たちは『書道』という言葉に対してすでに既成概念にとらわれてしまっている。筆はこうして、こう運んで、こう止める……。

障がいのある人の墨遊びのワークでは、ほとんどそんなものは通じないし、必要でもない。まさに手の動くままに……書き順とか、線が一本多いとか少ないとか。一人ひとりとても個性的ですのでひとくくりにはできません。

サポートする私たちが『書道』というなんとなくの既成概念（作法みたいな）から自由になり、さまざまな線の運び方、道具の使い方、なんでもアリだ、ということを踏まえ、対象者にあった方法を考えるのが楽しい。まさにアイデア次第。言葉の面白さ、そこで交わされるやり取り、会話を楽しみましょう。（関）

おわりに

私たちは、障がいのある人の表現する世界に魅了され、表現活動のサポートを展開してきました。

現在の私たちの取り組みを紹介させていただきますと…

★出前アートワークショップの提供

要請に応じてワークショップを提供する講師を派遣します。

★アートサポーター養成講座の提供（今回の体験市 他）

私たちは指導ではなく、サポートすることを原則とし、アート活動が本人主体で、より楽しく、豊かに提供されることを願い、サポートする人材を養成していきます。

★情報の収集・発信

県内の素敵な作家、作品の情報収集と発信 作品展の企画

★アート活動に関わる相談、支援

著作権のこと、展示の企画、活動の展開等について相談に乗ります。

★アートサポートに関わる人たちのネットワークの構築

…等の活動をしております。特に決められた枠は無いので、ながのアートミーティングにつながっていただき、皆さんと一緒に長野県内のアートシーンを盛り上げていきませんか。派遣する出前のワークショップ講師も募集中です。

[連絡先]

出前アートワークショップ等に関するお問い合わせ（関）
386-2201 長野県上田市真田町長2464番地 1
csxgb462@yahoo.co.jp

法人運営に関するお問い合わせ（中村）
380-0803 長野県長野市三輪9丁目13番15-1号
kanji@janis.or.jp

【今回の体験市を通じてお伝えしたかったこと】

私たちは障がいのある人たちの表現する姿から、様々なことを学びました。いわゆる美術教育を受けていない人たちが、なぜにあんなに自由に表現するのか？逆に考えると、いわゆる一般の多くの大人たちは普段の生活の中で、たとえば絵を描くことを自由に楽しんでいるのでしょうか？私たちは学校での美術教育をとおして、『絵はこう描くことが正しい』とか『上手に描けるか、否か』といった形のない決まりごとのようなものにとらわれ、縛られているように思います。『絵はこうあるべき』みたいな…。

本当はそんなことはどうでもよくて、上手か下手か、などということではなく、自分の内面にある言葉にならない、もやもやとしたものを自由に吐き出すことが本当のアートなのではないか、ということを知りたい。障がいのある人たちの表現する姿から突き付けられた気がしています。とすれば、アートとは何でしょうか？（答えの出ない問いですね）

『アート』という言葉はどこか特別な人の特別な世界のようなイメージを持たれてしまいます。ここで『アート』＝『自己表現』と言葉を置き換えるともう少しわかりやすいでしょうか？私たちは言葉だけでなく、身振りや、音を奏でる、絵を描く、ものを作るなどなど様々な方法で自己表現します。考えてみれば『自分の生き様』というのも自己表現ですね。とすれば誰もがアーティストともいえる。私たちは言葉による自己表現が多くを占めています。とすれば、言葉による自己表現が苦手な障がいのある人たちこそ、もっと言葉によらない自己表現の機会が尊重されてしかり、だと思ふのです。

上手な絵とか、完成度の高い作品か、もちろんそれにこしたことはありませんが、まずはその前に、自由に様々な手段、方法、素材や道具を使っての表現の場を提供していきたいと私たちがながのアートミーティングは願っています。

今回の体験市では表現活動にも、いろんな手法や素材、道具があることを体験していただきました。これを皆さんが持ち帰って、さらに応用したり、新たなアイデアによってさらに豊かで多様な表現を提案していただき、障がいのある人をはじめお年寄り、こども……誰もがその人独特の個性あふれる表現の場が広がることを願っています。

また、この今日を機会に、今後とも私たちがながのアートミーティングとつながっていただければありがたいです。

さらに県内に住む素敵な作家さんと作品の情報のお寄せいただければ幸いです。

NPO法人ながのアートミーティング
代表 関 孝之

日本財団 2015 年度助成
障害者のアートサポーター養成講座「ワークショップ体験市」の開催事業
成果物「アートワークのアイデア集」

発行日 平成 28 年 5 月 30 日
発行者 NPO 法人ながのアートミーティング
長野県長野市三輪 9 丁目 13 番 15 - 1 号
印刷所 第一企画株式会社



